

# 【復興支援道路】 立丸第一トンネルの貫通式を開催！

県南広域振興局土木部遠野土木センター

県が「復興支援道路」として整備を進めている、一般国道340号「立丸峠工区の立丸第一トンネル（L=1,839m）」が、着工から約2年の歳月をかけ貫通し、平成29年9月1日に貫通式が開催されました。

貫通式には、県、遠野市、宮古市、地権者、地域の代表者、遠野市立土淵小学校及び宮古市立川井小学校の児童、工事関係者等、約200名が出席しました。

貫通発破



小学生による貫通点通り初めの万歳三唱



貫通した光の先が遠野市側



最後に、参列者全員で記念撮影



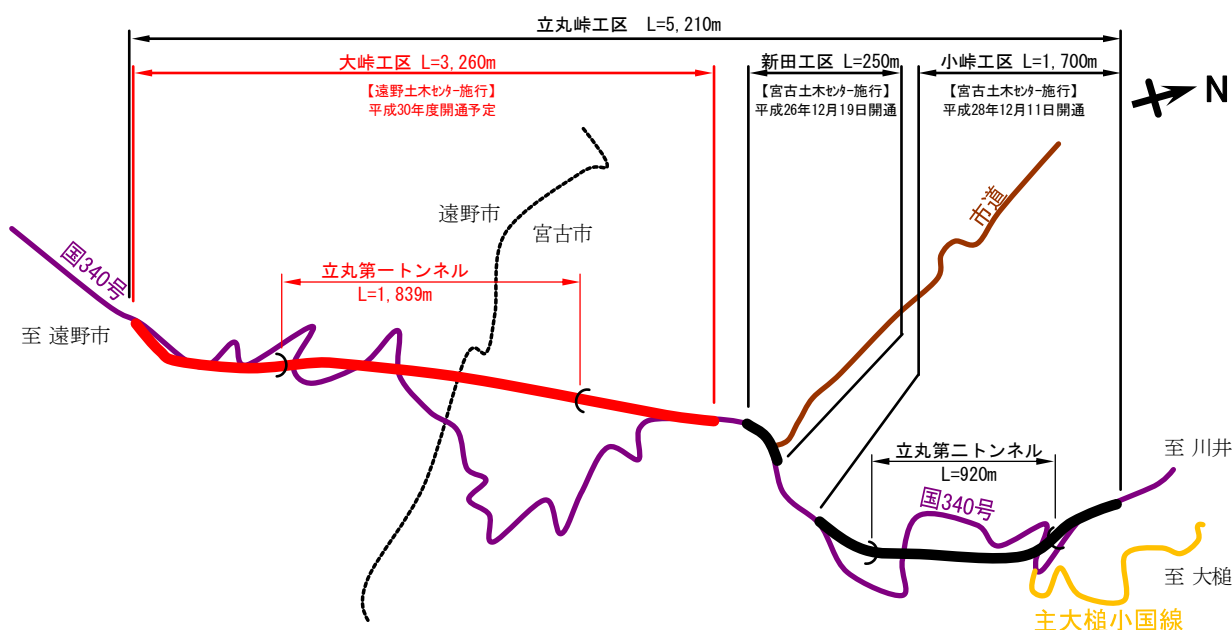
土淵小学校、川井小学校の児童からは、立丸第一トンネル貫通を迎え、開通への期待や工事関係者への感謝の気持ちなどを作文にして発表していただきました。

平成30年度開通に向け、仕上げの段階に入ったトンネル工事。子どもたちからのエールを胸に、完成に向け今後も無事故・無災害で復興への道を繋いでいきます。

【一般国道 340 号立丸峠工区事業概要】

一般国道 340 号は、北上高地を縦貫する唯一の幹線道路として、防災や地域間交流を支える重要な路線であり、東日本大震災津波の際は、後方支援拠点となった遠野市と沿岸市町を結ぶ「命の道」として大きな役割を果たしました。しかしながら、立丸峠付近では未だ幅員が狭く、急カーブが連続するなど交通の難所となっているため、本事業により立丸峠の幅員狭小区間、線形不良区間の解消が図られるとともに、速達性が確保され、緊急輸送道路としての機能が強化されます。

開通により遠野市と宮古市の連携強化が図られ、災害時の救助・救援・物資輸送などの緊急輸送道路としての確実性の強化や救急医療施設へのアクセス性の向上、観光ルートの強化などが期待されます。



幅員が狭くすれ違いが困難な箇所、急カーブの連続などが課題となっていた(写真は平成 24 年時点)